

日本 TA 協会第 33 回大会 プログラム詳細

1 日目

基調講演

6/5 (土) 10:20~12:00



ソーシャルワーク学士、統合心理療法修士、TSTA (心理療法)

1980年に南アフリカからオーストラリアのシドニーに移住。1982年にロンドンに移り、メタノイア研究所でトレーニングを受けた後、シドニーに戻り、心理療法士、スーパーバイザー、トレーナーとして働いてきた。エラナーの南アフリカと移民の歴史は、「違いを持って生活し、働く」という課題を理解し、それに取り組むことへの彼女の関心と意欲を支えてきた。これにより、彼女は多くの国際文化と協力し、そこで働くようになった。ITAAでは、1985年からのメンバー。研究とイノベーションの副会長、およびトレーニング委員会と認定委員会の役割を果たしてきた。ITAAのコア哲学である「高い専門的基準と社会正義の問題への取り組み」が、ITAAを彼女の本拠地になっている。

Elana Leigh (イラナー・レイ、ITAA 会長)

Joining hands in each other: from the perspective of ITAA

President. (お互いに手を携えて - ITAA 会長の視点から)

6/5 (土) 14:00~16:00

ワークショップ①

「自我状態と脚本～自分の中の自分・他者・世界とつながる～」

TAの目標である「自律性 (autonomy)」は、「気づき」と「自発性」、「親密さ」の3つの能力が自由に発揮されるようになることであるとされています。そのためには、まず自分に気づくことが大切です。自分に気づくことで、自発的に選択し、他者と親密な関係を持つことができるようになります。このワークショップでは、TAのコア概念である「自我状態」と「脚本」を使いながら、自分の中の自分・他者・世界とつながってみましょう。

講師：室城 隆之

江戸川大学教授、心理学博士、公認心理師、臨床心理士

民間企業に勤務していた際、TAと出会い、自分の人生を自分で決めることができることに気づいたことから転職し、家庭裁判所調査官として28年間非行・家族臨床に従事。その後現職に就き、大学教員として働きながら、再決断療法、ゲシュタルト療法のワークショップを行っている。